

児童虐待対策の

取組状況は？

問

児童虐待は、家庭という外から見えにくい場所が起こり、被害者となる児童が自ら助けを求めることが難しいため、未然防止や早期発見の対策が重要となる。また、虐待を受けた児童に対するケアとフォローが必要と考えるが、市は、どのような対策を実施しているのか。

答

児童相談所への虐待相談件数は全国的に年々増加しており、本市における児童虐待相談件数も増加傾向にある。相談内容は、いずれのケースも複雑な理由があり、根本的な解決に時間を要するものが多い状況である。

児童虐待の未然防止や早期発見の対策として、本市では、生後4か月までの乳児を対象に、保健師や看護師が全家庭を訪問する「こんにちは赤ちゃん事業」を実施しており、子育て支援の情報提供とともに親子の心身の状況、養育環境などを把握している。その

中で、育児不安を抱える家庭や児童虐待のおそれのある家庭は、保健師などが速やかに居宅を訪問し、早期の精神支援を行っている。また、市単独小中学生歯科医療費助成事業による歯科受診や小・中学校での身体測定など、あらゆる機会を通じて児童虐待の兆候を把握し、早期発見につなげるよう取り組んでいる。更に、虐待を受けた児童への対策として、通告や相談を受けた際に、必要に応じて児童相談所などと連携し調査を実施するとともに、緊急度や困難度が高い場合には、児童相談所や警察などとの連携による立入調査や一時保護などを行っている。また、施設退所後においても、児童が安定した生活を継続できるよう、家庭児童相談員などが児童を支え、見守るとともに、家族が抱える問題の軽減化を図っている。更に、平成29年4月の法改正に伴い、里親支援が児童相談所の業務として位置付けられることから、今後、本市においても児童相談所と協議を重ね、里親制度の普及・理解に努めていきたい。

新政クラブ

一般質問

今後の計画は？

市内道路整備

問

交通量が増加している市道下田明理川線の延伸部及び早期の整備が望まれている市道長野吉田線、更に丹原地区内の都市計画道路である市道下町線について、今後、どのように整備していくのか。

答

市道下田明理川線の延伸部については、整備によって交通量が分散化され、渋滞緩和や通学児童などの安全性が確保されるほか、今治小松自動車道へのアクセス環境も改善されるため、今後、明理川地区の国営は場整備事業と合わせ、効率的に整備が行えるよう道路計画を進めていく予定である。

市道長野吉田線の整備計画については、平成28年度に要望区間全体の道路詳細設計を実施する予定としており、今後、設計内容を地元関係者に説明し、地権者の協力を得ながら早期完成を目指したい。丹原地区内の都市計画道路である市道下町線は全線が未着手となっているが、市街地へのアクセス機能を果たす幹線道路として、まちづくりの骨格となる道路であり、災害時における避難路の確保や密集市街地の延焼遮断効果なども期待されている。本路線は、住宅密集地を通るため、地権者や地元関係者の事業への理解が不可欠であり、協力体制などの状況を判断し、事業実施時期を検討していきたい。

漁業従事者への

就労支援策は？

問

漁業従事者の高齢化が進む中、後継者不足も問題となっているが、どのように就労支援していくのか。

答

本市における漁業従事者数は、平成25年の漁業センサスによると272名、うち半数以上の176名が60歳以上で高齢化が顕著となっており、地域の漁業を存続させるためには、若手担い手の確保・育成が重要であると考えている。このため、希望者が円滑に漁業に就業できるよう、漁業学校などで必要な知識の習得を行う就業準備段階の若者に対し、最長2年間、年間150万円の資金を給付する新規漁業就業支援事業や、漁船や漁具などの近代化を図るために漁協系統金融機関の資金を利用した漁業者に対して利子の補給を行う漁業近代化資金利子補給金など国の制度が設けられているため、じゅうぶんに周知を行い、漁業者の就業につなげていきたい。



市道下田明理川線